

# とぎには、辛口

13

## ◆学ぶは真似ぶ

実のところ私はこの三月に中央大学を「卒業した人間である。つまり七十歳で定年退職した人間なのだが、”ときには、辛口”をもう少し書いてみないかと編集部で言ったださるので、こうして書かせて頂く次第である。

そう言えば私自身も言い残したことがまだ少しあるような気がしている。例えば、これは何年か前の授業中に雑談として話したことながら、まなぶ（学ぶ）とはどういうことなのかをもう一度書いておきたい。辞書を見ればわかるように、まなぶは真似（まね）ぶなのであり、基本はまねをすることにある。

最近では個性的、独創的であることが奨励さ



松本道介  
Matsumoto Michisuke

れる傾向が強く、まねなどするとなにか剽窃（ひょうせつ）のように見られる、つまり一種の盗みのようにさえ見るようになった。そのせいかまなぶという言葉もあまり使われなくなったと見るのは私の思いすぎだろうか。

## サルのクルミ割り

テレビの動物番組でも何度か見たが、最近では猿も胡桃（くるみ）のような堅い実を石ころで割って食べるようになったらしい。これも猿が人間のやることをまねしたせいなのか、それとも天才的な猿が自力で考えついたのかは知らない。ただ、猿の世界もかなりの情報社会になっ

たのはたしかで、胡桃のような堅い殻を割る技術はかなり急速に猿の社会にも普及してきているように思う。

或るとき、猿が胡桃の殻を割る場面に子猿が登場したことがあった。むろん子猿だつて実が食べたいから、まさにもの欲しげな表情で親が石ころで堅い殻を叩くさまを見まもっている。そのうちに殻が割れ、親は中から実をとり出して食べ始める。

しかし子猿に対して親はまったく知らん顔なのである。子猿に実を分けてやる気持ちなどまったくない。そこで子猿は仕方なく石ころなどを拾ってきて別の胡桃の殻を割ることを試み出した。つまり親のまねをし始めたのだが、最初は力も弱くてまったく駄目である。それに子猿は、胡桃の殻の下がただの土ではどんなに強く叩いても殻が割れないこと、土台に堅いものを敷く必要があることをまだ知らない。しかし親はそんなことを子猿に教えてやる気配はまったくなかった。

私はなぜかたいへん感動した。親猿は本能的に知っているのではなからうか——もしも親が殻を割って中の実を与えれば、子猿は嬉々としてこれを食べるだろうが、そんなこ

とをしていますが子猿はいつまでたつても自分で殻を割るすべを覚えないうたろうことを。

### 知らん顔の親猿 無愛想な父

それと同時に、私は自分の子供の頃、父親がこの親猿と同じように無愛想であったことを思い出した。私の子供の頃というと今から六十年前になるが、明治生まれの父親には皆親猿に似た無愛想さがあつた。当時は都会でも自分の家で風呂をたくことが多く、まきを割つたりのこぎりで木を切つたりすることは往々にして子供の仕事になつた。しかもそうした時に親が手とり足とり教えてくれることは一切なかつた。子供は見よう見まねでのこぎりやなたの使い方を覚えるしかなかつた。ひるがえつて現在の日本の教育を見れば、親猿が胡桃の殻を割ると出てきた実をすぐさま子猿に与えている状況である。これに応じて子猿の方はいつになつても自分で殻を割ることを試みない。いや、それどころか今の人間界には胡桃の殻などという面倒なものは最早存在せず、胡桃の殻はすべてどこかの工場で割つて実をとり出し、砂糖をまぶしたス

ナック菓子になつて出てくる時代であり、親も子もテレビを見ながらそのスナック菓子を時折ひまつぶしにつまむだけなのかもしれない。

風呂にしたつて栓をひねればお湯が出てくるのだから、子供が木を切つたり薪を割つたりする力仕事をする必要もない。その分の「力仕事」として親は子供にバッティングセンターへ行かせたり少年サッカークラブに入らせたりする時代になつたのかもしれない。バッティングセンターといえば、イチローの父親が息子を小さい頃からバッティングセンターに通わせたことは有名である。

ただ、イチローの父親はかつて大学野球のレギュラー選手であつたものの、息子に野球自体は一切教えなかつた。すべて自分で考えさせたと、イチローがロングインタービューで話したのが妙に印象に残っている。そこでイチローは巨人の篠塚あたりのフォームを徹底的にまねることでバッティングを勉強していったのだそうだ。

### 算数と漢字だけが宿題だつた

子猿に何ひとつ教えず、まねだけをさせる

親猿の教育法でイチローも育つたことになるが、六十年前の私の子供時代を考えると、当時の親たちも先生たちもなんとなくそんな教育法をとっていたような気がする。いや、教育法などとはとても言えない、たんに愛想がわるいだけの、勝手にまねだけしてるといった雰囲気があつただけなのかもしれない。とにかく勉強といえば計算問題を数多くこなせとか、同じ漢字の書きとりを沢山やれというだけだつた。

それで本当に学力がついたのかどうか、私にはわからない。ただ、もしも現在の若い世代の学力が低下したのだとしたら、相対的には私の世代の方が高かつたにちがいない。そして、塾もなくマニユアルもなく、ただたんにまねだけしてあとは自分で工夫しろといった無愛想な教育法の方がよかつたことになるのだろう。

それにしても私の子供の頃は何もなかつた。パソコンもケータイもテレビもなく、むしろテレビゲームもなかつた。何もなかつたから勉強でもやるしかなかつた、というのが私の偽らざる実感である。

(中央大学名誉教授)